

文教大学附属教育研究所主催

世界の教科書展

これまでの記録

The Record of the Exhibition of Various Countries' Schoolbooks

文教大学附属教育研究所では、1994年度以後、毎年「世界の教科書展」を開催してきた。当初は、附属図書館の一隅を借りて、研究所が収集した教科書を展示していた。しかし、この方法では、目に留める学生や教職員の数は限られてしまう。

そこで、第4回目となる1997年度からは「藍蔘祭」参加形式をとることとした。同時に、年度ごとの特集テーマを定め、教科書の収集とともに、テーマに関するパネル展示をする方針も固めた。研究所がこれまでに収集した他の教科書をあわせて展示するのは、もちろんのことである。

その結果、本学の学生、教職員はもとより、他大学の学生、近隣の住民も多数参観に訪れるようになった。参観者の中には、小・中学生も含まれている。算数の教科書は、言葉がわからなくても見れば内容は理解できる。他の教科書の場合にも、挿し絵で概ねの内容が理解されるものが多い。そうしたことから、子どもたちにも興味ある展示となっているようである。

毎回、参観者には簡単な感想を記してもらっている。それを見ると、この展示が参観者に歓迎されている様子がよく表れている。

本号の特集が教科書であることに鑑み、「藍蔘祭」参加（第4回目）以後、今年度までの展示の概略を次頁以降でご報告しておきたい。

- * 第4回（1997年度） 「教科書国定化の推移」「明治～昭和の教科書」
- * 第5回（1998年度） 「アメリカ数学学力論争」「日本の教科書検定」
- * 第6回（1999年度） 「中国の教育制度と教科書」
- * 第7回（2000年度） 「フランスの教育のあゆみ・しくみと教科書」
- * 第8回（2001年度） 「韓国の教科書」
- * 第9回（2002年度） 「歴史の教科書」